大学生の目標とする英語力

―英語学力，及び，学習項目に対する意識との関係から―

A Study on University Students' Targeted Level of English Learning

：Based on their English Proficiency and Image of English Learning

白川　恵里古[1]，サバウ・ソリン[2]，渡辺　真美[3]

Eriko Shirakawa[4], Sorin Sabau[5], Mami Watanabe[6]

要 旨

東海大学札幌キャンパスにおける新入生を対象に，目標とする英語力に関して，及び，学習項目に対する意識に関してのアンケートを実施した。本稿では，アンケート結果をもとに，大学生の目標とする英語力と，英語の基礎学力，及び，学習項目に対する意識との間の関係について論じる。大学生の目標とする英語力と学習項目に対する意識との間には，弱い相関関係を示す箇所がほとんどであったが，相関関係のみられなかった箇所により，学生が英語学習において文法を軽視している傾向が明らかにされた。

Abstract

We have performed a comparative study of the English proficiency and the targeted level of English learning in newcomer students at Tokai University, Sapporo campus. Besides opinions regarding the importance of vocabulary, grammar and pronunciation, the students were asked about the level of English ability they expect to achieve. Even though statistical analysis has shown a certain correlation level between these data, the presence of low correlations between some data fields shows the freshman students' tendency to underestimate the importance of grammar.

キーワード：　英語学力，目標とする英語力，英語力に対する意識，比較研究

Keywords: English Proficiency, Targeted Level of English Learning, Image of English Ability, Comparative Study

1. はじめに

大学生の英語学力低迷が懸念されるなか，この低迷の要因の 1 つでもある大学生の英語学習に対する意識についてはあまり明らかにされていない。英語学習に対する意識のなかでも，更に絞り込んだ，「単語・語彙」や「文法」や「発音」といった学習項目に対する意識を調査したものはほとんどみら

[1] 東海大学国際文化学部国際コミュニケーション学科，005-8601 札幌市南区南沢 5 条 1 丁目 1-1

[2] 東海大学生物理工学部生体機能科学科，005-8601 札幌市南区南沢 5 条 1 丁目 1-1

[3] 東海大学国際文化学部国際コミュニケーション学科，005-8601 札幌市南区南沢 5 条 1 丁目 1-1

[4] Department of International Communications, School of International Cultural Relation, 5-1-1-1 Minamisawa, Minami-ku, Sapporo 005-8601, Japan

[5] Department of Human Science and Informatics , School of Biological Science and Engineering, Tokai University, 5-1-1-1 Minamisawa, Minami-ku, Sapporo 005-8601, Japan

[6] Department of International Communications, School of International Cultural Relation, 5-1-1-1 Minamisawa, Minami-ku, Sapporo 005-8601, Japan

れないが，渡辺，他(2009)では『大学生の英語学力と学習項目に対する意識』についての調査を行っている。これは，大学生の基礎学力試験の結果と，学生が考える「英語力」において単語・熟語，文法，発音の重要性を問うアンケートの結果を，基本統計量と相関関係を使って統計学的に調べたものである。分析の結果，基礎学力試験の得点と学習項目に対する意識との間に有意な相関関係は見られなかった。つまり，英語学力と学習項目に対する意識との間には統計学的な関係性がないことが明らかにされた。具体的に言えば，英語学力に関わらず，単語・熟語，文法，発音のそれぞれの学習項目のうち，どれか 1 つが特に重要，または，特に重要ではないというような極端な考えを学生は持っていないという結果が得られた。しかし，英語力を伸ばすためには文法がとても重要であるにも関わらず，文法は「どちらかというと不要」と考える学生が多いことがわかった。実際には，学生は，文法が重要なことをわかっているが，文法は難しく，苦手なので避けたいと考えているのではないだろうか。確かに単語・熟語，発音に比べ，文法は覚えるだけではなく理解しなければならないので，英語が苦手な学生は特に否定的で「どちらかというと不要」という回答が多いと考える。

渡辺，他（2009）で用いたアンケートの質問事項にはこの他に，英語で読む・聞く・話す・書くことの4技能でそれぞれどのくらいのレベルを目標とするかを問うものがあり，この結果を分析すれば，目標の設定レベルにより，学習項目に対する意識に差異があるかどうかが明らかにされるかもしれない。今回はこの 4 技能の目標設定を問うたアンケート結果と基礎学力，学習項目に対する意識との関係について分析を行った。

2. 研究課題

本研究では，渡辺，他(2009）で収集されたデータをもとに，大学生が目標とする英語力は，英語の基礎学力，及び，単語・熟語，文法，発音という 3 つの学習項目に対する意識との間に関係があるかについて分析をした。研究課題は以下の 2 つを設定した。

1) 目標とする英語力と英語の基礎学力との間には関係があるか。
2) 目標とする英語力と学習項目に対する意識との間には関係があるか。

3. 方法

3.1 対象者

東海大学国際文化学部及び生物理工学部の全学科（札幌キャンパス）の 2009 年度新入生を対象にした。全新入生数 336 名のうち女性は 102 名，男性は 234 名である。その中で，質問紙票の回答において外れ値を示した者 1 名，質問紙回答に未記入項目があった者 1 名，基礎学力試験またはアンケート実施日に欠席した者 13 名，合わせて 15 名を対象外とした。

3.2 データ収集

データ収集は「英語の勉強に関してのアンケート」という題名のアンケート用紙を使用し，第 3 著者により行われた。アンケート実施時期は，入学式 3 日前の新入生全体ガイダンス時であり，対象者全員が参加を義務付けられているものであった。実施に際しては，必修英語の授業をより良く改善するためであるとの調査の趣旨が説明され，また，自分の意見を正直に回答してもらうために，回答結果が大学の成績に一切影響しないということが強調された[7]。記入時間は充分に与えられ，対象者全員

[7] Appendix A を参照

が記入を終えたことを確認してから回収された。なお，このアンケートは長時間のガイダンスの最後に実施されるため，質問項目設定は回答しやすさを優先させた。具体的には，短文を多用し，具体的なイメージがしやすい表現の使用を試みた。

アンケートの大問は 3 問設定したが，本研究では，1 問目と 2 問目の結果を使用した[8]。まず，1 問目にあたる質問は「あなたは英語でどのようなことまでできるようになりたいですか。当てはまる欄にひとつだけ○をつけてください」というものである[9]。回答は（1）読む，（2）聞く，（3）話す，（4）書く，の 4 つの技能について，レベル別に 7 段階で求めた[10]。さらに，その 7 段階のレベルを初級，中級，上級の 3 つのグループに分けて分析を行った。例えば，「読む」ことのスキルについては，アルファベットやメニュー，掲示等の文を理解することを目標と設定した者を初級グループに，簡単な物語や説明文，地図，時刻表を理解することを目標と設定した者を中級グループに，まとまりのある説明文を理解したり，料理のレシピや TIME，Newsweek の文章を理解することを目標と設定した者を上級グループに設定した。つまり，7 段階のレベルのうち，最も易しい目標であるレベル 1 とレベル 2 を初級，レベル 3 と 4 を中級，レベル 5 からレベル 7 を上級とした。

2 問目の質問は，「あなたが考える『英語力』にとって，次の項目はどれくらい重要ですか。当てはまる欄に○をつけてください」である。回答は（a）単語・熟語，（b）文法，（c）発音の 3 項目について，1. 重要，2. どちらかというと重要，3. どちらかというと不要，4. 不要の 4 件法で求めた。

3.3　英語の基礎学力を測定する上で使用されたテスト

英語の基礎学力を測るデータとしては東海大学全キャンパスで実施されている基礎学力試験を使用した。なお，この基礎学力試験は札幌キャンパスにおいては 2006 年度から導入されている[11]。

3.4　分析方法

基本統計量と相関関係の分析を行った。因子分析，T 検定分析も試みたが，有意差のある結果は得られなかった。

4. 分析結果

4.1　目標とする英語力別 3 グループの基礎学力試験の得点

下記の表は基礎学力試験の得点に関する基本統計量(平均値・最高値・最低値・最頻値)を目標とする英語力別に 3 グループごとに示したものである。表 1-1 は目標(読む，聞く，話す，書く)を上級に設定しているグループ，表 1-2 は目標を中級に設定しているグループ，表 1-3 は目標を初級に設定しているグループの結果である。図 1 は，これら 3 グループの基礎学力試験の平均値をグラフ化したものである。

---

[8] 3 問目は「『文法』ときいて何を思い浮かべますか。又はどんな感じがしますか。なんでも自由に書いてください。」という自由回答を求める設問であったため，本研究の対象外とした。なお，大半の学生がこの設問には無回答であった。

[9] Appendix B を参照

[10] このレベル設定は英検 Can-do リストを基に，少し修正を加えたものである。英検 Can-do リストとは，英語検定試験で延べ 20,000 人を超える 1 級から 5 級の合格者（合格直後）に対し，数回に渡る大規模アンケート調査を実施した結果で，個々に示された各項目は，調査に回答した合格者が自己評価して「自分はこの項目ができる自信がある」と考えたものを，統計的な手法を使って分析したものである（吉田研作，2007）。

[11] 2001 年度に英語の授業を習熟度別に運営するにあたり作成された。

表 1-1　目標とする英語力上級設定グループの平均値・最高値・最低値・最頻値

	読む	聞く	話す	書く
平均値	42.88	44.37	42.88	43.1
最高値	87	87	87	87
最低値	15	15	15	15
最頻値	30	30	30	38
有効件数	161	124	161	130

表 1-2　目標とする英語力中級設定グループの平均値・最高値・最低値・最頻値

	読む	聞く	話す	聞く
平均値	34.75	35.35	34.35	36.17
最高値	64	64	64	70
最低値	19	19	19	21
最頻値	34	34	34	30
有効件数	100	134	104	128

表 1-3　目標とする英語力初級設定グループの平均値・最高値・最低値・最頻値

	読む	聞く	話す	聞く
平均値	29.33	30.15	29.66	30.23
最高値	60	60	53	60
最低値	18	18	18	18
最頻値	26	31	32	32
有効件数	60	63	56	63

基礎学力試験の平均点には, 目標とする英語力 3 グループ間においてはっきりとした差がみられる。目標を上級に設定しているグループは，読む，聞く，話す，書く，全てのスキルで 40 点代前半，中級に設定しているグループは全てのスキルで 35 点前後，初級に設定しているグループは全てのスキルで 30 点前後という結果である。つまり，目標を上に設定しているグループは基礎学力試験において比較的高得点をとっており，目標を下に設定しているグループは得点も低い。しかし，目標とする英語力上級設定グループの基本統計量の最低値をみてみると，3 グループの中で最低の 15 を示している。最頻値についても, 目標とする英語力中級設定グループの 34 より低い 30 を示している。このことから, このグループでは学生の英語の基礎学力の差が大きいことが窺える。
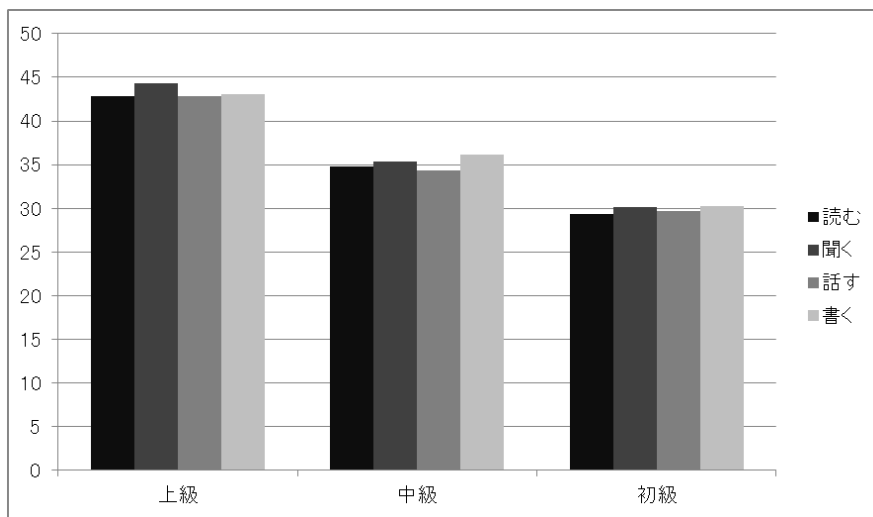
図1　目標とする英語力 3 グループの平均点

4.2　目標とする英語力と学習項目に対する意識[12]との相関関係

表 2 は自分の目標（読む・聞く・話す・書く）　とする英語力を 1～7 段階に分けたものと，学習項目(単語熟語・文法・発音)に対する意識を，1. 重要，2. どちらかというと重要，3. どちらかというと不要，4. 不要の 4 つに分けたものの相関関係を示している。

表 2　目標とする英語力（読む・聞く・話す・書く)対学習項目に対する意識(単語・熟語・文法・発音)との相関関係

	読む	聞く	話す	書く
単語・熟語	0.324*	0.273*	0.246*	0.237*
文法	0.228*	0.167	0.207*	0.192
発音	0.251*	0.239*	0.247*	0.233*

注　ほとんど相関関係がない(相関係数 0.0～0.2)
*弱い相関関係(相関係数 0.2～0.4)
中程度の相関関係(相関係数 0.4～0.7)

自分の目標とする英語力のそれぞれのスキル，つまり，読む，聞く，話す，書くことのスキルと，学習項目に対する意識との相関関係をみると，全体的に弱くはあるが相関関係があらわれている。相関関係がほとんどみられなかったのは，2 つだけであった。文法と「聞く」ことのスキル，及び，文法と「書く」ことのスキルである。このことから，学生は「聞く」ことと「書く」ことのスキル向上において，文法は重要とは意識していないということが窺える。

---

[12] 学習項目に対する意識の調査結果について，学科ごとの特徴や成績別グループでの特長については渡辺，他（2009）を参照のこと。それぞれの学習項目に対する意識に関して，「重要」「どちらかというと重要」「不要」「どちらかというと不要」と答えた回答者の全対象者に占める割合は下記のとおりである。
単語･熟語：「重要」/ 71%，「どちらかというと重要」/ 25%，「不要」/ 3%，「どちらかというと不要」/ 1%
文法：「重要」/ 37%，「どちらかというと重要」/ 48%，「不要」/ 14%，「どちらかというと不要」/ 1%
発音：「重要」/ 44%，「どちらかというと重要」/ 45%，「不要」/ 9%，「どちらかというと不要」/ 2%

5. 考察とまとめ

第一の研究課題は，目標とする英語力と英語の基礎学力との間には関係があるかであった。まず，目標とする英語力 3 グループの平均点グラフからは，目標を上級に設定しているグループ，目標を中級に設定しているグループ，目標を初級に設定しているグループを比べると，グループ間にはっきりとした平均点の差がみられた。目標を上級に設定しているグループは，読む，聞く，話す，書くこと全てのスキルで最も平均点が高く，反対に，目標を初級に設定しているグループは全てのスキルで最も平均点が低く出た。つまり，大学入学時において英語の基礎学力の高い学生は目標も高く，英語の基礎学力の低い学生は目標も低く設定するという傾向がある。このことから，学生が自分の目標を自分の英語学力とかけ離れた設定をしない傾向があるということが窺える。

次に，目標とする英語力 3 グループの基礎学力試験の得点に関する基本統計量(平均値・最高値・最低値・最頻値)からは，目標(読む，聞く，話す，書くことのスキル)を上級に設定しているグループは，最高値が，初中級グループに比べ高いことがわかる。しかし，最低値も初中級グループと比べ低いという結果が出た。つまり，基礎学力試験で最高得点を取った者と，最低得点を取ったものが，このグループの中に含まれているということだ。上級グループの最頻値をみると，目標とする英語力中級設定グループの 34 より低い 30 を示している。このことから，目標とする英語力を上級に設定したグループには，自分の英語学力にとらわれず学力とかけ離れた高い目標設定をする者が，他のグループに比べて存在することがわかる。

第二の研究課題は，目標とする英語力と学習項目に対する意識との間には関係があるかであった。まず，自分の目標(読む，聞く，話す，書くことのスキル)と学習項目(単語・熟語，文法，発音)に対する意識との間には，下記の 2 つを除いて弱い相関関係が見られた。読む，聞く，話す，書くことの 4 つのスキルを目標とすることについて，特に単語・熟語が重要である，文法が重要である，発音が重要であるというような, 1 つの学習項目を重視するというような偏った考えは持っていないということがわかる。

しかし，文法に対する意識と「聞く」ことのスキル，文法に対する意識と「書く」ことのスキルに関しては，相関関係が見られなかった。前者の結果からは，文法は「聞く」ことのスキルを向上させる上では重要でないと考える学生が多いということが推察される。オーラルコミュニケーションを中心とした教育では，日本人は積極性に欠けるということで，まず単語でも良いからコミュニケーションを取ることが優先され，文法は軽視される教育が行われている。しかし，これでは初歩的なリスニングのスキルは獲得できても，まとまりのある文を正確に聞き取ることは難しいであろう。

後者の結果からは,「書く」ことのスキルを向上させる上で文法が重要であるとは学生は意識していないということが示された。初歩的なレベルでも文の法則に則らなければ英文を書くことはできない。「話す」場面では，話し相手の反応や発話確認により，単語を羅列しただけの発話でも完全な誤解とはならない場合も少なからず想定される。しかし,「書く」場面では，例えば第 3 文型でいえる単純な内容であっても，文の法則，つまり文法がわかっていなければ，誤解や意思疎通不可能な結果を生み出す。ましてや，中上級レベルの英語力を目指すのであれば，文を構成する力と直接関係のある文法の力は欠かせないものとなる。言い換えれば，文法の重要性を認識しなければ，中上級レベルの英語力は獲得できないともいえる。コミュニケーション能力を主眼とした英語教育において，文法の知識は必要最低限の基礎であるということは多くの英語教育者によって指摘されている（斎藤・斎藤, 2004; 澤井, 2001; 鳥飼, 2002; 茂木, 2004）が，文法は「コミュニケーションと対立するかのように扱われ,

文法ばかりやるから英語が話せない，などという意見が常識化している」（鳥飼　2002:83）現状に頭を悩ませる良識のある現場教員も数多くいる。現代のオーラルコミュニケーション重視の英語教育が，文法の重要性を学習者に認識させず，その結果，英語の基礎力さえ身に付けることのできない学習者を多く生み出し続けるのであれば，このオーラルコミュニケーションの弊害は直ちに是正されるべきであろう。

参考文献

斎藤孝，斎藤兆史（2004），『日本語力と英語力』東京：中央公論新社（中公新書ラクレ）
澤井繁男(2001),『誰がこの国の英語をダメにしたか』東京：日本放送出版協会
高橋健吉，木村喜吉（1975），『日本語の英語教育史』東京：大修館書店
鳥飼玖美子（2002），『TOEFL･TOEIC と日本人の英語力』東京：講談社現代新書
茂木弘道（2004），『文科省が英語を壊す』東京：中央公論新社（中公新書ラクレ）
吉田研作（2007），「日本の英語教育改革と Can-do の意味」，（財）日本英語検定協会ウェブサイト：＜http://www.eiken.or.jp/about/cando/cando_01.html＞，採録 2011 年 1 月 17 日
渡辺真美，サバウ・ソリン，白川恵里古(2009),「大学生の英語力像とその基礎学力」，『東海大学国際文化学部紀要』2，107-118

（受付 : 2011 年 12 月 22 日，受理 : 2012 年 2 月 14 日）

Appendix A: Survey Cover

英語の勉強に関してのアンケート

このアンケートの目的は、皆さんの英語に対する考えをお聞きして
それを参考に、将来、より良い英語教育プログラムを作ることです。

集計・統計結果は公表しますが、皆さんの個人が特定されるような
情報公開は一切致しません。また、皆さんの回答により
大学の英語の授業が難しくなったり、成績が悪くなったりすることは全くありません。

ですから、安心して、正直に答えてください。

東海大学札幌キャンパス英語教務委員

問1　学生証番号と名前を書いてください。

学生証番号	
名前	

問2　高校で英語の授業は週何時間ありましたか？数字で記入してください。

1年	2年	3年	3年間の一週間の合計

それでは、二つ折りの部分を開いて、アンケートに答えてください。
質問は6問あります。質問1には４つ、質問2と質問3がそれぞれ1つで、合計6問です。

よろしくお願いいたします。

Appendix B: Survey Questions

Q1. あなたは英語でどのようなことまでできるようになりたいですか。

当てはまる欄にひとつだけ〇をつけてください。

	当てはまるものの横に〇をひとつだけつけてください。	〇
Q1-1 読む	アルファベットや符合がわかり、初歩的な語句や文を理解することができる。 （I play tennis every day 等の簡単な文）	
	簡単な文章や表示・掲示を理解することができる。 （メニュー、“Closed”等の表示・掲示、家族を紹介している手紙等）	
	簡単な物語や身近なことに関する文章を理解することができる。 （地図、簡単な伝記等）	
	簡単な説明文を理解したり、図や表から情報を得ることができる。 （外国の生活を紹介する教科書の文、時刻表、調査結果のグラフ等）	
	まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から必要な情報を得ることができる。 （日本語の注や説明がついた英字新聞、料理のレシピ、簡単なチラシ等）	
	社会性の高い分野の文章を理解することができる。 （講義の資料、仕事に関する手紙、商品の取扱説明書等）	
	社会性の高い幅広い分野の文章を理解することができる。 （TIME、Newsweek、文学作品等）	

	当てはまるものの横に〇をひとつだけつけてください。	〇
Q1-2 聞く	初歩的な語句や定型表現を理解することができる。 （“Nice to meet you” 等のあいさつ、曜日・年齢等が聞き取れる）	
	簡単な文や指示を理解することができる。 （Open your textbook 等の指示、簡単な自己紹介が聞き取れる）	
	ゆっくり話されれば、身近なことに関する話や指示を理解することができる。 （乗り物の出発時刻等の簡単なアナウンス、好きな音楽・クラブ活動等の話が聞き取れる	
	日常生活での話題や簡単な説明・指示を理解することができる。 （ゆっくり話されなくても、乗り物の出発時刻等の簡単なアナウンス、好きな音楽・クラブ活動等の話が聞き取れる）	
	日常生活での情報・説明を聞き取ったり、まとまりのある内容を理解することができる。 （天気予報、店員からの説明、他の学校・会社の説明や情報が聞き取れる）	
	社会性の高い内容を理解することができる。 （ニュース番組の要点、興味･関心のある講義等が聞き取れる）	
	社会性の高い幅広い内容を理解することができる。 （政治・経済的なニュースや環境問題等に関する講演が聞き取れる）	

Q2. あなたが考える「英語力」にとって、次の項目はどれくらい重要ですか。当てはまる欄に〇をつけてください。

（「単語・熟語」「文法」「発音」の3つに関して、必ず1つ〇をつけてください。）

	重要	どちらかというと重要	どちらかというと不要	不要
単語・熟語				
文法				
発音				

Q1. あなたは英語でどのようなことまでできるようになりたいですか。

当てはまる欄にひとつだけ○をつけてください。

	当てはまるものの横に○をひとつだけつけてください。	○
Q1-3 話す	初歩的な語句や定型表現を使うことができる。（「おはよう」等のあいさつや、時間等が言える）	
	簡単な文を使って話したり、質問をすることができる。（自己紹介をしたり、相手の名前を尋ねることができる）	
	身近なことについて簡単なやりとりをしたり、自分のことについて述べることができる。（食べ物等の「好き」「嫌い」と、その理由、日常生活の行動等について言える）	
	日常生活で簡単な用を足したり、興味・関心のあることについて自分の考えを述べることができる（メニューを見ながら注文したり、自分の訪れたい国・やりたいこと等が言える）	
	日常生活での出来事について説明したり、用件を伝えたりすることができる。（旅行など印象に残った出来事を話したり、店員に質問したり好みを伝えたりできる）	
	社会性の高い話題について、説明したり、自分の意見を述べたりすることができる。（調べたことについてプレゼンをしたり、専門分野の講義や発表について質問や意見が言える）	
	社会性の高い幅広い話題についてやり取りをすることができる。（社会的な話題や時事問題について、質問や意見が言える。相手や状況に応じた的確な表現ができる）	

	当てはまるものの横に○をひとつだけつけてください。	○
Q1-4 書く	アルファベット・符号や初歩的な単語を書くことができる。（自分の名前や、犬・食べる・ハッピー等）	
	簡単な文やメモを書くことができる。（「私は昨日学校へ行った」等の英文。and・but・when・because 等を使った英文）	
	自分のことについて簡単な文章を書くことができる。（自己紹介や趣味等についての英文）	
	興味・関心のあることについて簡単な文章を書くことができる。（自分のお気に入りのものの紹介や訪れたい国・やりたい仕事等の英文）	
	日常生活での話題についてある程度まとまりのある文章を書くことができる。（旅行など印象に残った出来事についての英文。住んでいる地域の簡単な紹介文等）	
	日常生活の話題や社会性のある話題についてまとまりのある文章を書くことができる。（日本の祝日や食べ物等についての簡単な紹介文等）	
	社会性の高い話題についてまとまりのある文章を書くことができる。（社説や論文などの要約や、仕事や調査についてのレポート等）	

Q3.「文法」ときいて何を思い浮かべますか。又はどんな感じがしますか。何でも自由に書いてください。